

# 吾妻山 溪谷遡行の記録

1975～1980年

## 不動沢

### 下流部遡行

一九七五年八月十日

#### ◆天気(曇)

車で信夫温泉まで入る。砂防工事用の道路を少し進んだ所で須川にヤブをこいで降り立つ。不動沢出合には九時二〇分につく。左の川床の赤いのが須川本流で、右の川床の黒っぽいのが不動沢である。

出合から少しさかのぼった所では今砂防工事が盛りである。一〇時鼓滝へ着く。四〇分はあろうかという大きな滝で信仰の対象となっている。左岸には不動明王がまつられ、大きな釜をもっている。左岸は大きな岩場なので右岸を捲く。不安定な草付きを登り樹林帯を横に進んで、鼓滝の落口を過ぎたと思われる所で、樹木につかまりながら急下降する。出た所はF2の落口であった。

あとは別段見るべき所もなく一時に高湯とぬる湯を

結ぶ登山道に出る。ここで昼食をとり、あとは不動滝までゴルジュの廻行をやって、硫黄精練所跡にぬけ高湯に出た。

(記)

〔タイム〕

信夫温泉八・一五―沢八・三〇―不動沢出合九・二〇

―鼓滝一〇・〇〇―登山道一・〇〇―不動滝一二・一

〇―高湯一二・五五



不動沢・鼓滝

## 中流部廻行

一九七五年六月二十九日

◆天気(曇一時小雨)

車が高湯まで行き不動沢に向かう。前日から阿武隈川が大増水したので心配したが、不動沢は増水していなかった。七時二〇分全員ワラジをつけて出発。小滝一つを越すとすぐに砂防ダムで左岸を簡単に乗り越える。この不動沢は砂防ダムが多く不動沢橋まで四つを数えた。

最初は平凡。樹林帯に入り暗くなり小滝を越えると、いよいよ不動沢の核心部ゴルジュ帯にさしかかる。兩岸の側壁は二〇〜五〇メートルといった所だが、上流に向かって低くなっている。最初の五層は深い釜のふちを腰まで水に入ってへつり右岸を直登。アンザイレンして一人一人登る。続く一〇メートル滝は頭から水を浴びながらシャワークライムで突破。次の小滝二層は高さこそたいしたことないが深い釜をもっている。左岸を微妙なバランスでへつり、ザイルをわたして突破。六層ナメ状、右岸を少し捲きぎみに登る。

